

第6学年 国語科学習指導案

指導者 前田 靖典

1 日 時 平成27年11月26日(木) 6校時

2 学年・学級 6年1組(男子18名 女子16名 計34名)

3 単元名 「川とノリオ」

4 単元の目標

- すぐれた表現(情景描写や心情描写、表現技法など)を味わい、その効果や登場人物の心情について自分の考えを持つ。(関心・意欲・態度)
- 自分と友だちの考えの共通点や相違点に着目して話し合い、自分の考えや意見を述べる。(話すこと・聞くこと)
- 話し合いを生かし、事実と感想、意見などを区別して、自分の言葉でまとめる。(書くこと)
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述を味わい、登場人物の心情を想像しながら読む。(読むこと)
- 比喩や擬人法、体言止めなどの表現の工夫について、その意味や効果をとらえる。(言語事項)

5 単元について

授業において、どの教科も進んで発表したり、自分の考えを述べたりすることのできる児童は4～5人と少ない。他の児童は、まわりを気にしたり、自信を持てなかったりして、受け身の姿勢になっていることが多い。

国語の学習では、物語文の主人公の心情や説明文の要約など自分の考えをまとめ、書くことのできる児童は多く見られる。しかし、グループ交流で相手の考えに共感したり、意見を持ったりして、自分の考えをさらに深めて書き加える児童は少ない。

そこで、物語文の「きつねの窓」の学習では、自分の考えを深め、書く活動に積極的に取り組ませた。きつねに対する主人公の心情の変化や指で作った窓の中に映るものなどについて、書き込みシートにまとめ、グループ交流を行った。ファンタジーの要素が多く、場面を想像しやすく、主人公の心情を文中から具体的(疑い、感動、感謝、後悔など)な言葉で見つけることができ、書き込みシートにも詳しく書く様子が見られた。しかし、グループ交流から新しい意見や違う考えが出にくく、自分の考えを再考し、深める活動までには至らなかった。

「川とノリオ」は、戦争という苦しい時代の中で生きるノリオを中心に描かれている。そして、ノリオや母ちゃんやじいちゃんが生まれるもっと前から、流れ続けている川とともにノリオが成長していく物語である。ノリオの生き方と絶えず流れ続ける川の様子を対比しながら読み進めたい教材である。

また、淡々とした叙述で物語が進み、登場人物の心情が直接描写されることがほとんどないため、人物の様子や行動、状況などから心情を想像することが必要になる。さらに、文中には、比喩表現、擬人法、擬音語、体言止めなどの表現技法が多く用いられ、これらの表現が人物の心情理解にもつながるものとなっていることがある。一読しただけでは、登場人物の心情にせまることは難しい。しかし、情景描写から登場人物のさまざまな心情を想像し、友だちと意見を交流しあうことで、自分の考えを再考し、深める活動に適した教材である。

「川とノリオ」を読んだ児童の疑問や感想の中には、物語の主題に深くかかわっているものが多くある。そこで、児童が無意識に読んでいる表現の中に、比喩や擬人法、体言止めなどの技法が用いられていたり、情景描写として読んでいた表現に登場人物の心情が隠されていたりすることに着目させる。児童は、表現技法や心情描写などの「すぐれた表現」の中に隠された登場人物の奥深い心情を味わう経験となる。

また、場面ごとにノリオと川の様子や関わりをまとめる。そして、ノリオにとっての川はどんな存在であるのか考え、川に対するいろいろな見方に気づき、考えを深める。

授業の終盤では、「また、八月の六日が来る」の場面に絞って読みを深める。これまでの学習で学んだことを意識させる。叙述を丁寧におさえ、心情描写に着目していくことで、直接、書かれていないノリオの心情に迫る活動になる。

そして、ノリオの心の様子が特に伝わる表現や文を選び、書き込みシートにまとめる。選び、まとめることで自分の考えがはっきりし、全体やグループでの意見交流での積極的な姿勢につながる。積極的な意見交流が、新たな考えや違う視点に気づききっかけになり、自分自身で再考し、考えを深める手がかりにする。

また、題名に注目し、作者がこの物語を通し、読者に何を伝えたかったのか考えさせたい。「ノリオ」は戦争に翻弄され、がむしゃらに生きる人間の姿を表し、「川」は、戦争の中でも普遍的に流れ続け、ノリオを静かに見守る存在としてとらえさせる。児童が考えたノリオにとっての川の存在との違いを比べ、作者の思いに近づく活動にする。

また、ノリオの心情に寄り添い、自分自身に置き換え、戦争の恐ろしさや大切な人を失うことの悲しみを想像したり、考えたりできる学びにもつなげる。

6 単元における評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
<p>叙述に即して、すぐれた情景描写や心情描写を味わいながら、登場人物の心情を理解しようとしている。</p>	<p>自分と友だちの考えの共通点や相違点に着目しながら、話し合っている。 友だちの考えを生かしながら自分の考えを述べている。</p>	<p>話し合いを生かして考えたことを自分の言葉で書いている。 話し合ったことでさらに深まった自分の考えを書いている。</p>	<p>すぐれた表現や文に気づき、その効果を考えながら文章を朗読している。 すぐれた表現や文に表れた情景描写や登場人物の心情描写に気づき、丁寧に読んでいる。</p>	<p>比喩や擬人法、体言止めなどの表現の工夫について、その意味や効果をとらえている。</p>

7 指導計画（全9時間）

第1次 初めてこの作品を読んで、どのような感想を持ったか話し合おう【1時間】

書き込みシート①

第2次 すぐれた表現を探し、その効果について考えよう【3時間】**知る活動**

- ・比喩、擬人法、体言止め、倒置法、対比、反語、色の表現、音や様子を表す表現などを見つけ、その効果について考える。（始まり～冬 P87L9 まで）
- ・「川とノリオ」の大まかなあらすじについてまとめる。（2時間）
- ・登場人物の心情を描写している表現や文を見つけ、その効果について考える。（始まり～冬 P87L9 まで）（1時間）書き込みシート②

第3次 ノリオと川の関わり合う様子が分かるところを場面ごとにまとめていこう

【2時間】**理解する活動**

- ・場面ごとにノリオと川の様子についてまとめる。（始まり～冬 P87L9 まで）
- ・ノリオにとっての川の存在について考える。（2時間）書き込みシート③

第4次 「また、八月の六日が来る」の場面の中で、心が動かされた表現や文を選び、その意味することや効果について話し合い、深め合おう

【3時間】**深め合う活動**

- ・「また、八月の六日が来る（P87L10～終わりまで）」の場面の中で心が動かされた表現や文を選び、その意味することや効果について考え、選んだ理由についてまとめる。（1時間）書き込みシート④
- ・心が動かされた表現や文の中からノリオの心情にせまる描写を探し、ノリオの強い思いについてまとめる。自分にとってノリオの気持ちが一番伝わる表現や文について自分の意見をまとめる。本時（1時間）書き込みシート⑤
- ・「川」と「ノリオ」は、この物語において、何を意味しているのか考え、グループで話し合い、意見をまとめる。（1時間）書き込みシート⑥

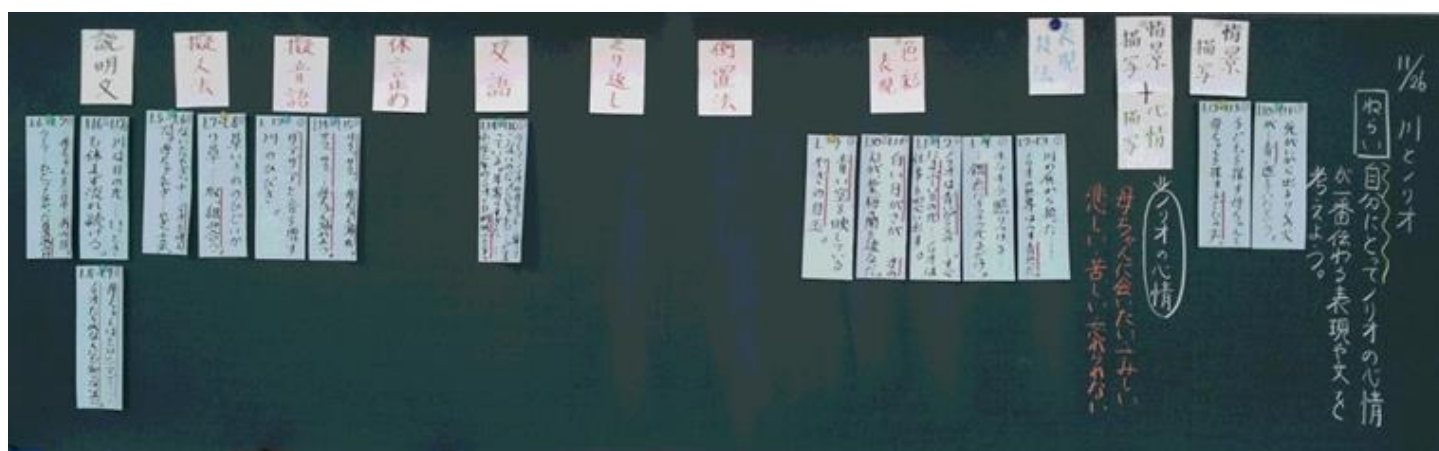
8 本時の目標

- 「また、八月の六日が来る」の場面で、ノリオの心情が分かる描写を見つけ、強い思いを考えることができる。
- ノリオの心情描写からノリオの強い思いが伝わる表現や文を選ぶことができる。

9 本時の授業展開

学習内容	指導上の留意点	評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを知る。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ノリオの心情がわかる描写を見つけ、思いの強さが伝わる表現や文について考えよう。</div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノリオの心情が想像できる描写を探し、ノリオの心情を想像して書く。 書き込みシート ・ グループ交流をし、友だちの意見を聞く。 交流 再考 ・ クラスで交流し、意見を出し合う。 交流 再考 ・ ノリオの心情が自分にとって一番伝わる表現や文を決め、シートにまとめる。 書き込みシート ・ 次時の課題を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ交流の中ででた表現や文から探すなど、これまでの学習も生かすように活動させる。 ・ 表現技法にも着目させ、ノリオの心情が強く表れる文を意識させる。 ・ 友だちの意見を参考にし、ノリオの心情を書き加える。 ・ <u>ノリオの「母ちゃんに会いたい・悲しい。さみしい、忘れられない」という心情をいろいろな表現で描かれていることに気づかせる。</u> ・ いろいろな表現や文から読み取れる、ノリオの強い思いが何かを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と友だちの考えや相違点に着目しながら、話し合うことができる。 ・ 話し合ったことでさらに深まった自分の考えを書くことができる。

10 板書計画



11 成果と課題

成果

- ・一つのテーマに対して、異なった立場になって話し合わせた時、すぐれた表現（表現技法など）に着目し、本文からその理由を探し、意見を述べる児童が増えた。
- ・書き込みシートにまとめた自分の考えをグループで交流する機会がたぐさまもてた。他の授業においても、班での関わり合いや意見交流が前よりも活発に行われるようになった。
- ・グループ交流や全体交流で意見の交換を活発に行ったことで、友だちの意見に共感したり、自分の考えをより明確にしたりして、再考する児童が増えた。

課題

- ・45分間の授業で、書き込みシートに書き込み、グループ交流を活発に行い、再考する時間をしっかり持つ授業展開を考えることは難しかった。教師側のねらいのポイントを絞って授業公開したほうがよかった。
- ・意見交流や再考を授業の中心に考えて行うなら、対立する意見やテーマを決め、討論形式で行うのが効率的だと思った。
- ・書き込みシートの形式が似たようなものになっていたのも、授業のねらいをもっと絞り、書き込む内容が授業展開に生かされるように工夫改善ができた。
- ・表現技法を学ぶ視点に偏りすぎたところがあった。